

ポコマン



ポコマン・ごとうよいち / え・ケドウとモコ

ほし み だいす
星を見るのが大好きなマサヤくん。

ひ へ や まど ほし
その日も部屋の窓から、ぼんやり星をながめていました。

ときなが ほし
その時流れ星が。

ねこず かわい まち ねこ
猫好きなマサヤくんは、ちょっと可愛そうなこの町の猫たちが

しあわ す ねが
幸せに過ごせるようにとお願いしました。



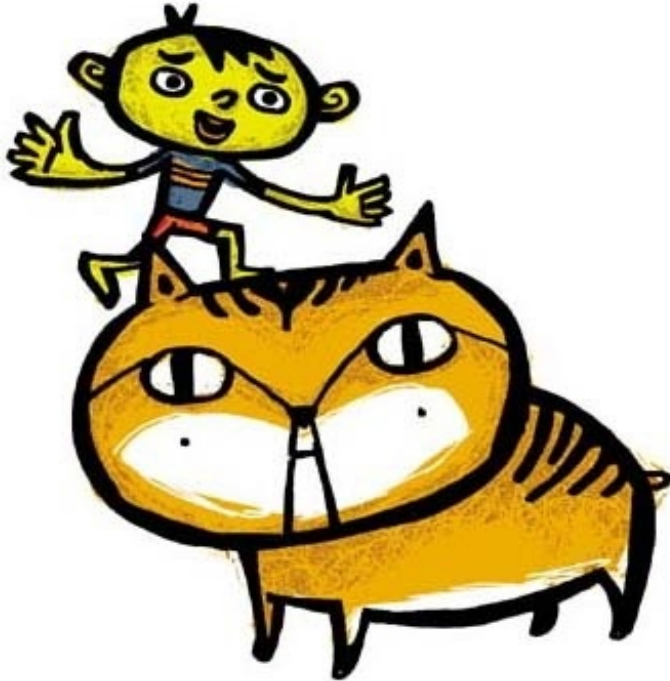
なが ほし ねが き
「流れ星、お願い聞いてくれるかな。

いま なが ほし とちゅう まが
でも、今の流れ星、途中で曲がらなかった？」

つぎ ひ まち なか
次の日、マサヤくんは町の中で

それまでに見たことのない、太った猫を見ました。

その猫は太っていましたが、とても可愛い顔をしていて、
マサヤくんは一目見てその猫のことを好きになりました。



「キミは今まで見たことのないコだね。

どこかよその町から来たの？

それともどこかの家の飼い猫かな？」

ふと ねこ まち なか
その太った猫は、まるで町の中をパトロールするかのよう
みまわ ある
にゆっくりアチコチを見回しながらゆったり歩き、
ほか ねこ であ
他の猫と出逢うと、ニヤニヤニヤニヤニヤと
にひき な
二匹で鳴きあっていました。

なに はな
「みんなと何を話しているのかな？
ひ こ
引っ越してきた、
ごあいさつをしてるのかなあ？」



やがてその猫は一軒の家の前で立ち止まりました。

それは猫を見かけると、ほうきを持って追いかけてまわす猫嫌いの

小柴さんの家でした。毒のエサをまこうとして、町の人に止められたくらいの

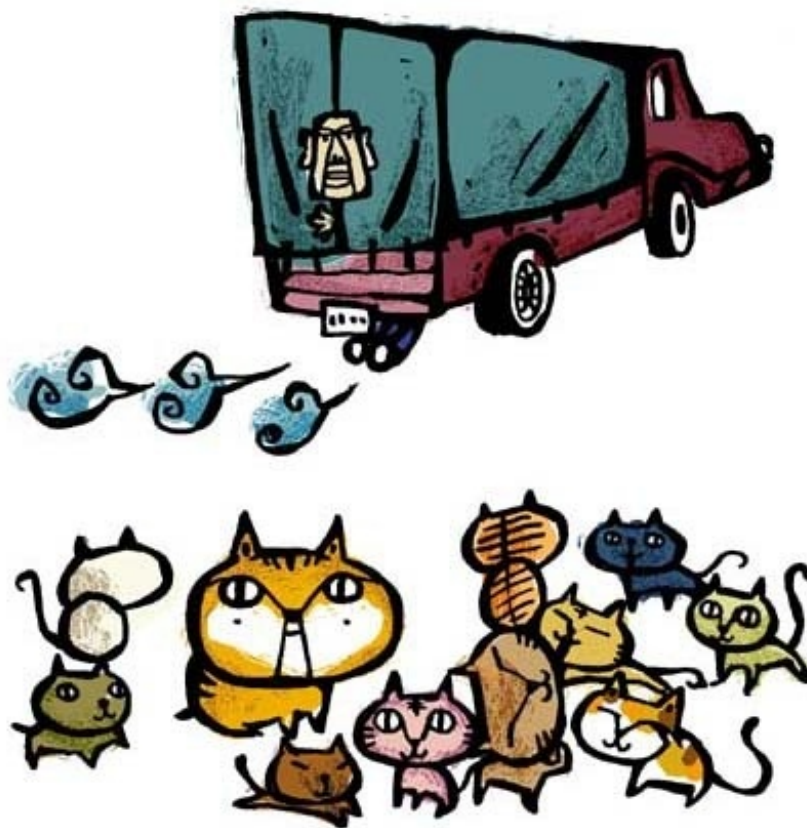
猫嫌いのおじいさんです。その家に向かって、太った猫は

にやーあ————と、まるで抗議をするかのように低く鳴きました。



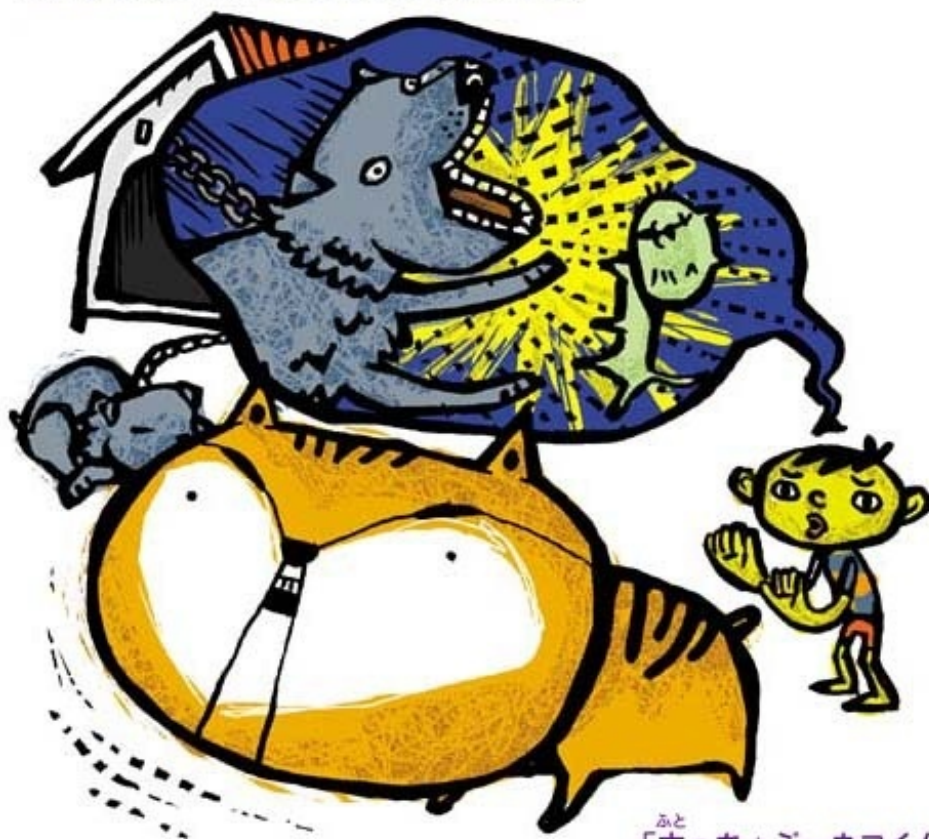
「そんな風に鳴いたら、
小柴のおじいさんが出てきちゃうよ。やめときなよお…」

つぎ ひ こしば とつぜん べつ まち ひ こ
次の日、小柴のおじいさんは突然、別の町に引っ越していきました。
むすめ いえ いっしょ く きゅう き
娘さんの家で一緒に暮らすことに急に決まったそうです。



お ねこ
「追っかけられなくなって、猫のみんなよかったね
むすめ く
おじいさんも娘さんと暮らせてよかったね」

べつ ひ ふと ねこ こんど いぬ む
別の日、太った猫は今度は犬に向かって
にやーあ————と低く鳴いていました。
か いぬ ねこ とく ねこ む
その飼い犬のロクは よくほえる犬で、特に猫に向かって
よくほえる犬でした。
ね ゆだん とお ねこ む
寝たふりをして、油断して通る猫に向かって
いきなりほえて、おどかしたりするのです。



ふと
「太っちょぶーネコくん

ロクにかかるとロクなことにならないよ。

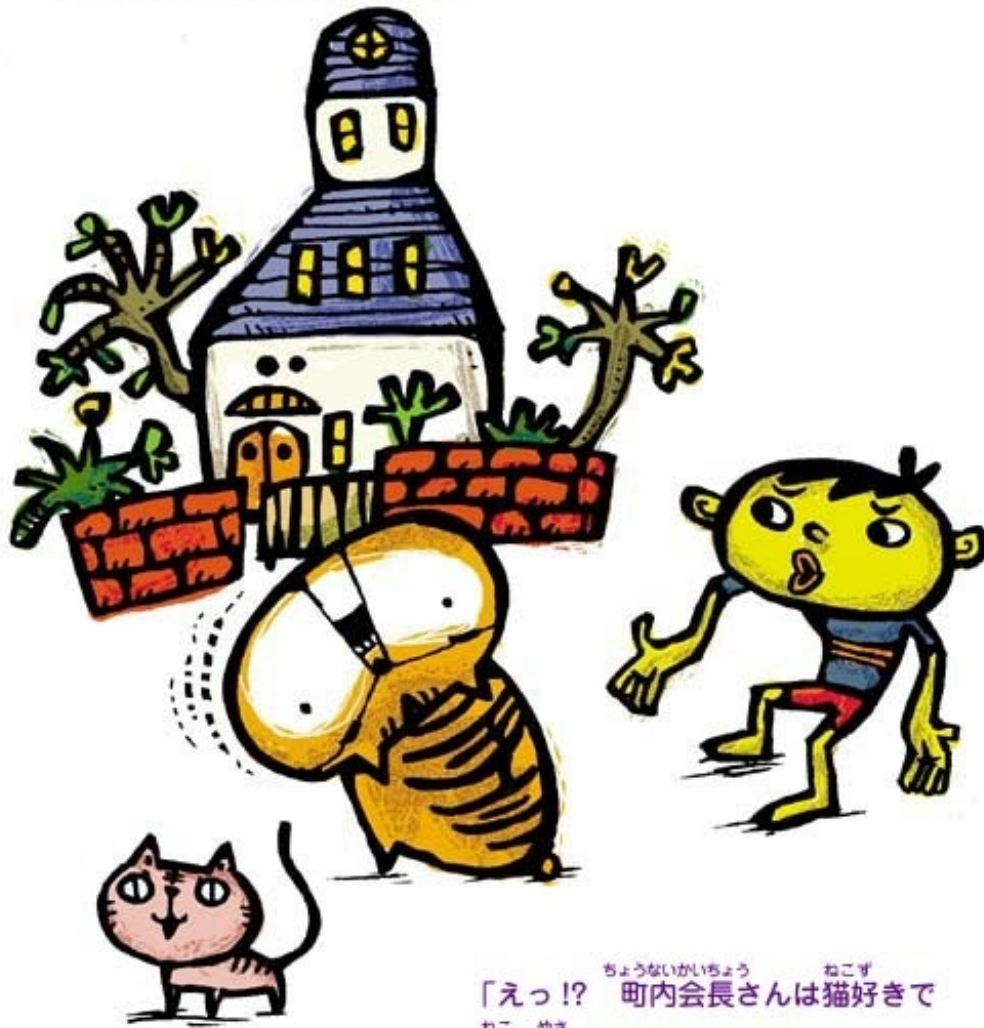
いや、ダジャレじゃないんだよ…」

その次の日、ロクのところへ突然お嫁さんがやってきました。
ナナという名のその可愛い犬に、ロクはすっかりデレデレ。
やたらとほえることをすっかりやめて、
クーン、クーンと
甘えた声ばかりを出すようになりました。



「なんだかロクは、ちがう犬になっちゃった。
でも、幸せそうだし、猫たちもおどかさねないですむし、
よかったよかった」

また別の日、太った猫はある家に向かって
にゃーあ————と低く鳴いていました。
そこは町内会長さんの家でした。



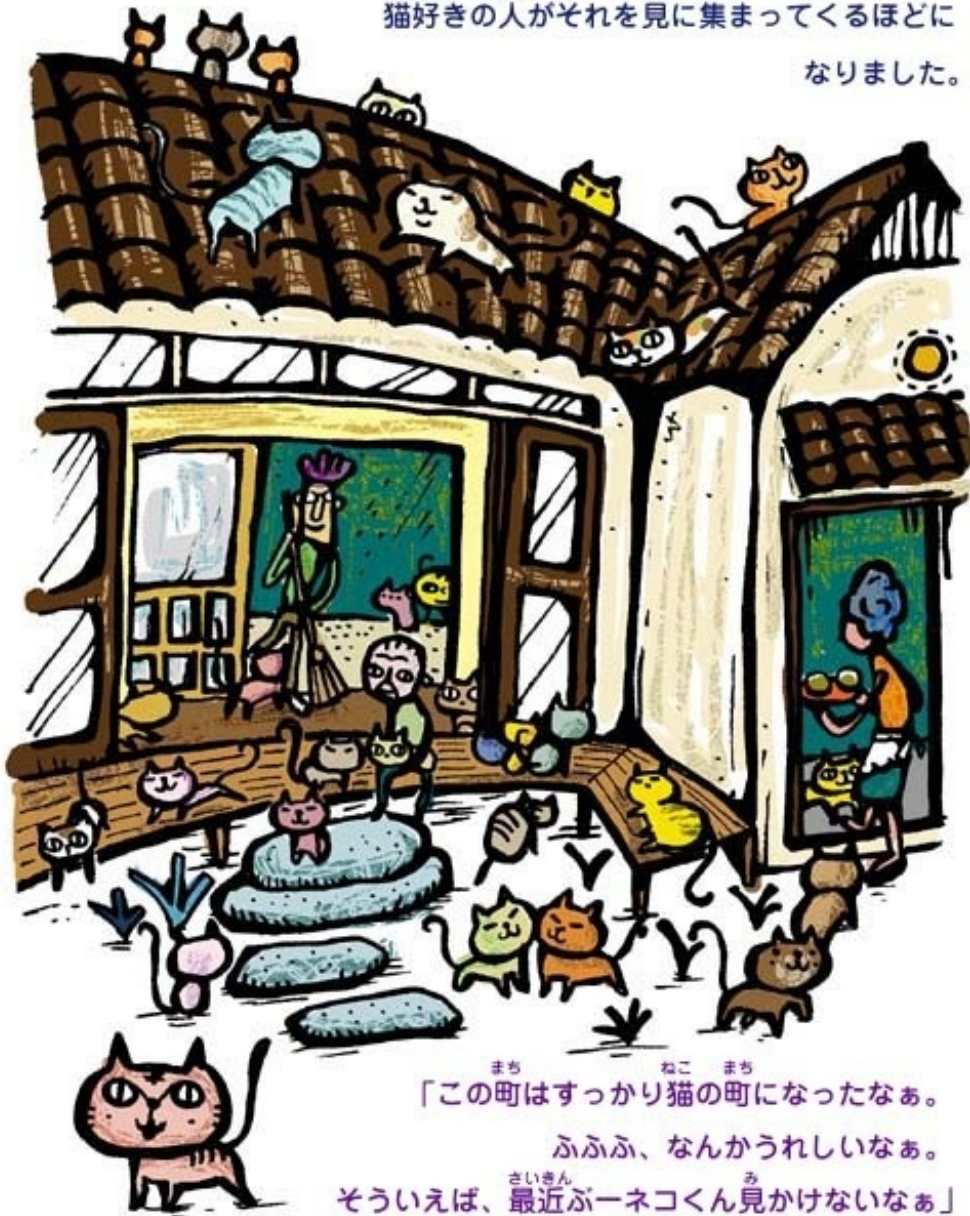
「えっ!? 町内会長さんは猫好きで
猫に優しいおじさんだよ。
なんでそんな声で鳴いてるの?」

つぎ ひ ちょうないかいちょう ちょうない いえいえ し とど
その次の日、町内会長さんから町内の家々に、お知らせが届きました。



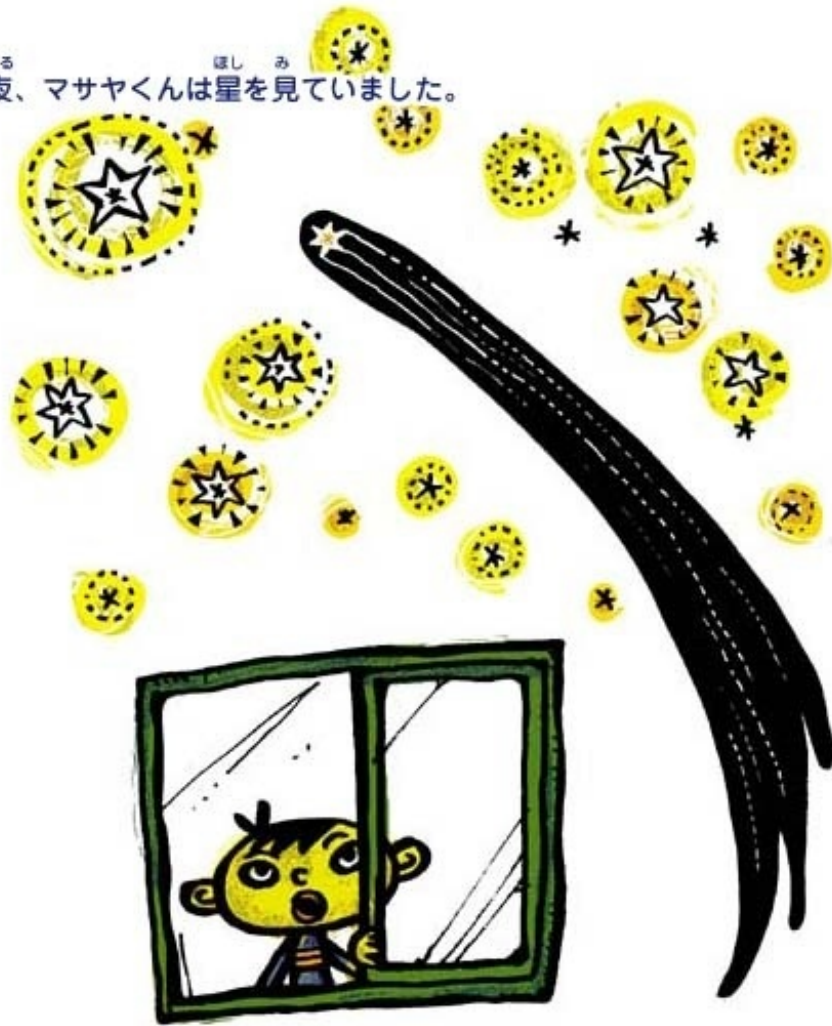
「わー、^{こしば}小柴さんちが、^{ねこ}猫のみんなが^{あつ}集まれる^{ばしょ}場所になるんだねー。
^か飼い猫のみんなも、^{のらねこ}野良猫のみんなも^{こしば}小柴さんちで^{たの}のんびり楽しくできるねー」

マサヤくんの住んでる町は、猫がとっても住みやすい町になりました。
ネコがたくさん集まる家があるというウワサは、町内以外にも広まり
猫好きの人がそれを見に集まってくるほどに
なりました。



「この町はすっかり猫の町になったなあ。
ふふふ、なんかうれしいなあ。
そういえば、最近ぶーネコくん見かけないなあ」

よる
夜、マサヤくんは星を見ていました。



きょう
「今日はいつもより星が多い気がするなあ。

なが ほし
あ、流れ星っ！ お願いしなくちゃっ!!

いま なが ほし
でも今の流れ星…、下から上に流れなかった？」